

リーフレット

SL1000からSL2000へ移行時のAPI置き換え

スコープコード SDKへの移行

SL1000 コントロールAPIをご使用の場合、SL2000とスコープコードSDKを使用することで移行可能

プログラムの一部を修正することで、SL1000 コントロールAPIからスコープコード SDKへ置き換えることができます。

スコープコード SDK

DL950/SL2000 のアキュイジションにおける波形データ取得、フラッシュアキュイジションに保存されているデータをPC に転送、およびファイル操作・ファイル転送の機能に関するAPI (Application Programming Interface) を提供するものです。

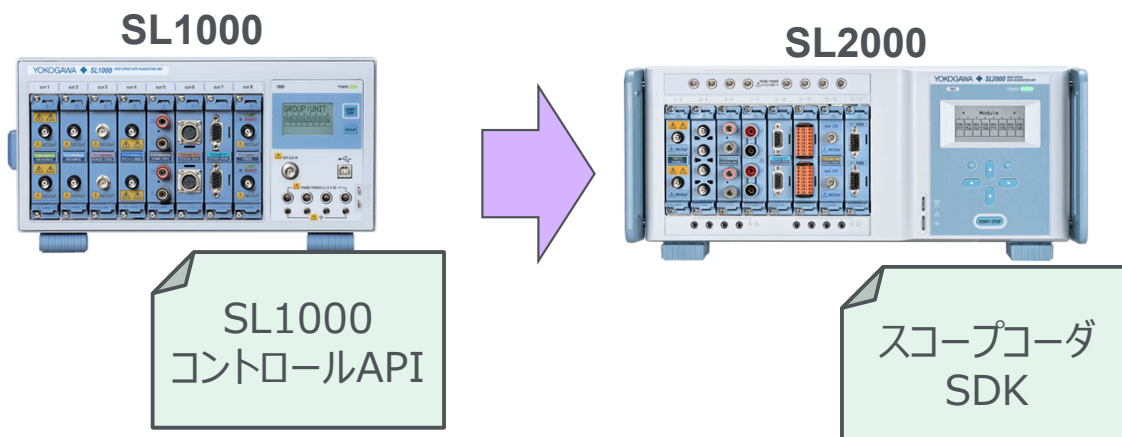
対応製品

DL950/SL2000 (ファームウェアバージョン2.01以降)

※USBで動作させるには、別途専用 USBドライバ (YTUSB) が必要です。

開発環境

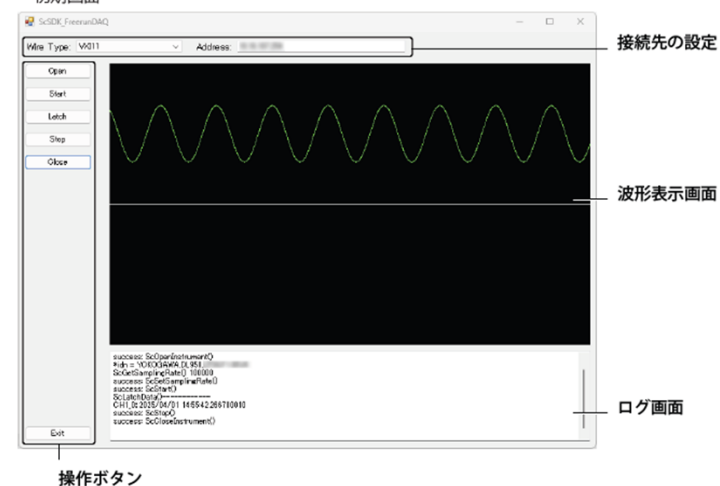
Visual Studio 2017 以降 .NET Framework 4.7 以降



サンプルプログラムの一例

データアキュイジションフリーラン (freerun SingleUnit)

初期画面



LF_SL1000APItoSL2000-01JA
Rev.1 2025/12/2

SL1000 コントロールAPI (SxAPI) との比較

以下は、SL1000 コントロール API と同じ機能を有するスコープコーダ SDK 関数の一覧になります。

関数概要	SL1000 コントロール API	スコープコーダ SDK
初期化	SxInit	ScInit
終了	SxExit	ScExit
コマンド送信	SxSetControl	ScSetControl
コマンド送受信	SxGetControl	ScGetControl
		ScQueryMessage
コマンド送受信	SxGetControlBinary	ScGetBinaryData
イベントハンドラ生成・通知許可	SxCreateEvent	ScAddEventListener
		ScAddCallback
イベントハンドラ削除	SxDeleteEvent	ScRemoveEventListener
		ScRemoveCallback
測定モードの設定	SxSetAcqMode	ScSetMeasuringMode
サンプリング周波数の設定	SxSetSamplingRate	ScSetSamplingRate
サンプリング周波数の問い合わせ	SxGetSamplingRate	ScGetSamplingRate
		ScGetChannelSamplingRate
測定開始	SxAcqStart	ScStart
		ScStartEx
測定停止	SxAcqStop	ScStop
		ScStopEx
ラッチ実行	SxAcqLatch	ScLatchData
		ScLatchDataEx
マニュアルトリガ発生	SxExecManualTrig	ScResumeAcquisition
収集データ情報の取得	SxGetChannelInfo	ScGetChannelGain
		ScGetChannelOffset
ラッチ区間サンプル点数の取得	SxGetLatchLength	ScGetAcqDataLength
最新アキュイジション番号の取得	SxGetLatestAcqNo	ScGetLatchAcqCount
波形データの取得	SxGetAcqData	ScGetLatchRawData
		ScGetChAcqData
データ収集時刻の取得	SxGetAcqTime	ScGetTriggerTime
設定情報のセーブ	SxSaveSetup	ScSaveSetup
設定情報のロード	SxLoadSetup	ScLoadSetup
カレントドライブの設定	SxFileSetCurrentDrive	ScSetCurrentDrive
カレントドライブの問い合わせ	SxFileGetCurrentDrive	ScGetCurrentDrive
カレントディレクトリの設定	SxFileChDir	ScSetCurrentDirectory
カレントディレクトリの問い合わせ	SxFileCwDir	ScGetCurrentDirectory
ファイル数の取得	SxFileGetFileNum	ScGetFileNum
ファイル情報の取得	SxFileGetFileInfo	ScGetFileInfo
ファイルの削除	SxFileDelete	ScDeleteFile
ファイルの取得	SxFileGet	ScDownloadFile
ファイルの作成	SxFilePut	ScUploadFile

通信コマンド

DL950/SL2000の制御のため、通信コマンドを送受信する場合、以下の通信コマンド制御関数を使って送受信します。

通信コマンドは、以下の通信コマンド制御関数を使って送受信します。

API Name	Function	Page
ScSetControl	通信コマンドを送信する	4-7
ScGetControl	通信コマンドの応答を受信する	4-8
ScGetBinaryData	バイナリデータを受信する	4-9
ScQueryMessage	通信コマンドを送信しその応答を受信する	4-10

通信コマンド制御関数の詳細は 4.1 節「共通 API」を、コマンドの詳細は DL950 スコープコーダ /SL2000 高速データアキュイジションユニット 通信インタフェース ユーザーズ マニュアル (IM DL950-17) をご覧ください。

サンプルプログラム

本ソフトウェアは、以下のサンプルプログラムを同梱しています。

フォルダ名	内容
file	ファイル操作・転送機能 (file)
flashacquisition	フラッシュアキュイジションデータアクセス
freerun	MultiUnit 複数台同期用データアキュイジションフリーラン
	SingleUnit データアキュイジションフリーラン
reopen	測定器再接続及び測定モード設定
trigger	MultiUnit 複数台同期用データアキュイジショントリガ
	SingleUnit データアキュイジショントリガ

それぞれのサンプルプログラムは、C++、C#、VBNet に対応しています。

フォルダ名	内容
ScSDKNetSample	サンプルプログラム (C#)
ScSDKSample	サンプルプログラム (C++)
ScSDKVBNetSample	サンプルプログラム (VBNet)

ご使用の環境に合わせて、これらのサンプルプログラムを参考に、本書に記載された API を利用してください。

出典：スコープコーダ SDK ユーザーズマニュアル (IM D165-01JA) 第 5 節